

笑顔あふれる松風学園

令和元年度

事業報告書



横浜市松風学園

基本理念

～ひとりひとりが輝き 尊敬し 支えあう 地域社会を実現します～

- 1 利用者一人ひとりの人権を守り、個性を尊重します。
- 2 利用者の安全と安心を見守り、「利用者本位」の質の高いサービスを提供します。
- 3 利用者の「地域生活移行」を支援します。

【倫理綱領】

第1条 個人の尊重

職員は、利用者一人ひとりの人格を大切にし、その主体性、個性を尊び、個人を尊重します。

第2条 人権擁護

職員は、利用者一人ひとりへのいかなる差別や人権侵害も許さず、自己決定やプライバシー保護等の基本的な権利を尊重し、人権を擁護します。

第3条 自己選択・自己決定の尊重

職員は、利用者一人ひとりの自己選択・自己決定等により、自己実現を図ることができるよう自己選択・自己決定を尊重し支援します。

第4条 個別支援

職員は、利用者の支援にあたって、一人ひとりの個性やニーズに応じるとともに、利用者及び家族への十分な説明及び相互理解により個別支援計画を作成し一人ひとりに合った支援をします。

第5条 生活環境の整備

職員は、利用者が快適で充実した日々を過ごせるよう、施設及び周辺環境整備に努めます。

第6条 社会参加の支援

職員は、利用者が地域の住民と交流しながら、地域社会の中で市民として豊かに暮らせるよう支援します。

第7条 在宅生活者の支援

職員は、総合相談や短期入所の事業を通し、地域の在宅知的障害者とその家族への福祉サービスの向上に努めます。

第8条 地域との調和

職員は、ボランティアや実習生の受入れ及び施設開放等を施設運営に組み込み、地域との協働を推進します。

第9条 職員行動基準

具体的行動にあたっては、横浜市職員行動基準を規範とします。

目 次

I 治 革	1
II 施設概況	1
III 組 織	1
IV 利用者の状況	2
V 実施事業	
1 入所・通所利用者支援	5
2 地域支援	9
3 防災対策	12
4 人材育成	12

I 沿革

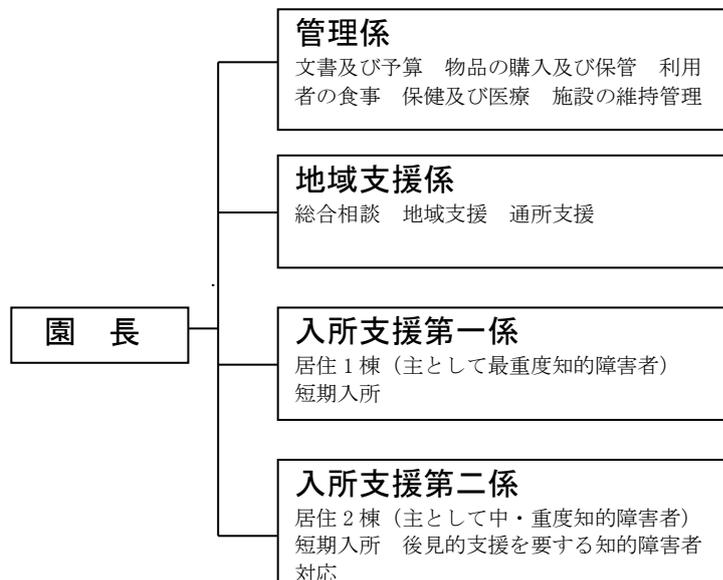
- 昭和35年10月 知的障害児施設「横浜市松風学園」開設（入所定員30人）
- 昭和40年 4月 知的障害者更生施設併設（入所定員50人）
- 昭和42年 2月 児童部門に重度棟併設（入所定員20人）
- 昭和55年 4月 横浜市松風学園再整備設計着手
- 11月 児童部門が「横浜市なしの木学園」として独立移転
- 昭和58年 4月 新「横浜市松風学園」（入所定員100人）第一期完成
（居住棟、管理棟、体育館）
- 昭和59年 5月 新「横浜市松風学園」再整備完了
- 通所更生部門併設（通所定員20人）、
福祉ホーム併設（入所定員10人）、短期宿泊訓練部門併設
- 平成19年10月 障害者自立支援法に基づく「障害者支援施設（施設入所支援・生活介護・短期入所）」へ移行。

II 施設概況

- 1 所在地 横浜市泉区上飯田町 1987 番地 TEL：045-802-0441 FAX：045-803-4963
- 2 敷地面積 18,651 m²
- 3 延床面積 5,763 m²（居住棟2棟、CS棟、通所棟、福祉ホーム、管理棟等）
- 4 入所棟居室
 - (1) 居住1棟（A棟）
 - 1人部屋×5室
 - 2人部屋×4室
 - 3人部屋×3室
 - 4人部屋×2室
 - (2) 居住2棟（B棟）
 - 1人部屋×17室
 - 2人部屋×5室
 - 3人部屋×5室
 - 4人部屋×5室
 - (3) 短期入所 1人部屋×4室
- 5 入所定員 98人（うち短期入所4）
- 6 生活介護定員 114人

III 組織

- 1 施設種別：障害者支援施設（入所支援 生活介護 短期入所）
- 2 設置運営主体：横浜市



IV 利用者の状況

R2. 3. 31 現在 単位：人

1 施設入所支援利用者の状況

令和元年度の入退所状況

年度当初在籍者数		81
異動	入所	0
	退所	5
年度末在籍者数		76

1名が特別養護老人ホームに移行し、
4名が亡くなられたため、退所は5名となりました。

年齢別性別の状況

年齢 性別	20歳 未満	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	70歳 以上	計	平均 年齢
男	0	4	12	5	7	8	6	42	49.4
女	0	4	6	3	7	9	5	34	52.1
計	0	8	18	8	14	17	11	76	50.6

※最年少者は男性 23 才、女性 20 才、最高齢者は男性 77 才、女性 84 才です。

入所期間の状況

期間 性別	1年 未満	1~5 年未満	5~10 年未満	10~15 年未満	15~20 年未満	20~30 年未満	30~40 年未満	40年 以上	計	平均入 所年数
男	0	9	7	3	3	5	12	3	42	20.8
女	0	5	7	3	6	2	9	2	34	20.1
計	0	14	14	6	9	7	21	5	76	20.5

※最長入所期間は男性 53 年が 1 名、女性 54 年が 1 名です。

障害者総合支援法障害支援区分及び療育手帳状況

等級 区分	等級					計
	A1	A2	B1	B2	その他	
3	男	-	-	-	-	-
	女	-	1	-	-	-
4	男	1	1	-	-	-
	女	1	1	1	-	-
5	男	6	1	1	-	1
	女	4	4	1	-	-
6	男	28	3	-	-	-
	女	18	2	1	-	-
計	男	35	5	1	-	1
	女	23	8	3	-	-

療育手帳以外（身体障害者手帳及び精神障害者手帳）の取得状況

障害種別	等級				
	1級	2級	3級	4級 以下	
肢体	男	-	3	1	-
	女	-	3	2	1
視覚	男	-	-	-	-
	女	-	-	1	-
聴覚	男	-	-	-	-
	女	-	-	1	-
内部	男	-	-	-	-
	女	-	-	1	-
精神	男	-	-	-	-
	女	-	-	-	-

※入所できる人は区分4以上（50才以上の場合は区分3以上）が条件です。区分が5、6の方で療育手帳のA1、A2の利用者が全体の9割を占めています。

入退所者数推移

年度	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
入所	3	5	5	3	2	6	4	5	1	0
退所	1	5	2	1	3	3	4	5	2	5
在籍者数	75	75	78	80	79	82	82	82	81	76

定員数 98 人（うち短期入所者 4 人）

過去 10 年の地域移行者数
(グループホーム入居)

年度	入所棟から	福祉ホームから	計
22	0	0	0
23	2	2	4
24	2	0	2
25	1	0	1
26	1	0	1
27	1	0	1
28	0	0	0
29	3	0	3
30	1	0	1
R1	0	0	0
計	11	2	13

過去 10 年の施設移行者数
(身障施設、介護保険施設、他高齢者施設入所)

年度	入所棟から	福祉ホームから	計
22	1	1	2
23	2	0	2
24	0	0	0
25	0	0	0
26	1	0	1
27	1	0	1
28	2	0	2
29	1	0	1
30	1	0	1
R1	1	0	1
計	10	1	11

2 生活介護のみ利用者の状況

R 元年度の入退所状況

年度当初在籍者数		8
異動	入所	0
	退所	0
年度末在籍者数		8

年齢別性別の状況

年齢 性別	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	2	1	1	2	0	0	6	38
女	0	1	0	1	0	0	0	2	37.5
計	0	3	1	2	2	0	0	8	37.9

※男性の最年少者は 22 才、女性は 27 才、男性の最高齢者は 55 才、女性は 48 才です。

障害者総合支援法障害支援区分および療育手帳の状況

区分	等級	A1	A2	B1	B2	計
	1	男	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-
2	男	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-
3	男	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-
4	男	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-
5	男	-	1	-	-	1
	女	-	-	-	-	-
6	男	3	2	-	-	5
	女	1	1	-	-	2
計	男	3	3	-	-	6
	女	1	1	-	-	2

※通所できる人は区分 3 以上（50 才以上の場合は区分 2 以上）が条件です。

3 短期入所利用者の状況

R元年度短期入所：延べ利用日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	58	61	43	62	60	55	71	56	72	56	60	54	708
女性	53	59	44	53	55	54	51	46	50	52	43	41	601
計	111	120	87	115	115	109	122	102	122	108	103	95	1309

短期入所枠は、男性2名、女性2名になります。男性ニーズが高く、稼働率は平均90%を超えます。

R元年度短期入所：利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	18	22	19	21	20	20	25	20	25	20	22	17	249
女性	15	15	11	13	14	15	15	14	14	14	13	12	165
計	33	37	30	34	34	35	40	34	39	34	35	29	414

R元年度1年間の実利用人数は、男性30人、女性18人でした。
うちR元年度新規で当園を利用した人数は、男性7人、女性4人でした。

R元年度短期入所の相談経路 単位：件

家族	288
区福祉保健センター	78
通所先	0
その他	48
計	414

R元年度短期入所の利用目的 単位：件

家族都合	13
レスパイト	275
緊急性	5
施設体験	36
養護性	85
計	414

ご家族や区福祉保健センター担当者からの相談のほか、計画相談員による相談も増えてきています。



V 事業報告

令和元年度事業計画に基づき、職員が一丸となって利用者本位の支援を実施しました。利用者の個別課題や施設運営上の課題など克服すべきことは多岐に渡りますが、まずは優先すべきことから着実に実施しました。

1 入所・通所利用者支援

(1) 個別支援計画に基づく良質なサービス提供

利用者一人ひとりについて、正確なアセスメントと意向確認やニーズ把握を踏まえた個別支援計画策定を行い、利用者の意向を尊重した良質なサービス提供に努めました。

(2) 日中活動・余暇活動支援

ア 日中活動支援

メニュー	活動内容
感覚身体機能維持系	音楽プログラム、体操プログラム、ストレッチ、フットケア、マッサージ、作品作り、ゲーム
スヌーズレン	感覚刺激空間を用いたリラクゼーション活動など
屋内作業系1	ビーズ通し、ペグ挿し、パズル、キャップ入れなど
屋内作業系2	ボールペン組み立て、割りばしの袋詰めなど
屋外作業系	花の栽培、野菜作り、果樹の収穫、染め物
散歩	散歩（距離に応じてグループに分かれる）
つうしょクラブ	散歩、ビーズ工芸、絵画、工作、刺繍、調理実習

日替わりで作業療法士が日中活動に入り、作業能力の維持を目指した支援を行いました。メニューの内容によって作業指導員（スーパーバイザー）を委嘱し、染め物の作品づくりや体操プログラムなどの専門的指導を受けました。

イ 余暇活動支援

入所棟では、日中活動のない水・土・日曜日及び祝日は、利用者一人ひとりのニーズに合わせた買い物、喫茶、ジャムづくり、地域の音楽イベントへの参加などの余暇活動を行いました。

また、お花見、収穫祭、寿司パーティーを企画する等、各棟独自にイベントも行いました。



【感覚身体機能維持系】



【屋外作業系】

(3) 地域生活移行支援

ア 他施設見学会の実施

現実的な地域移行や施設移行のイメージづくりのため、令和元年度は市内グループホーム1か所（1名）、日中活動先として生活介護事業所2か所（2名）を見学しました。

イ 他事業所日中活動利用

地域移行・施設移行を具体的に進めるため、他事業所の日中活動の利用を進めています。
令和元年度は、就労継続B型事業所ぶどうの樹（1名）、生活介護事業所リバーサイド泉（1名）、泉地域活動ホームかがやきの生活介護事業（2名）に通所されました。

(4) 成年後見制度の利用

成年後見制度が必要な利用者について、家族への情報提供を行いました。さらに必要度の高い利用者（地域移行準備中の方、4親等以内の親族がいない方等）については、具体的に手続きを進めました。現在、成年後見制度利用者は44名います。

(5) 権利擁護活動

ア オンブズパーソンの訪問

良質なサービス提供のため、オンブズパーソン2人が年10回学園を訪問し、利用者との個別面談や人権委員会へ参加し、第三者委員の視点から業務の質の点検を行いました。また、オンブズパーソンの母体となる横浜ふくしネットワーク（Yネット）の運営委員及び事務局の一部を松風学園の職員が担い、施設における権利擁護活動を積極的に推進したほか、運営責任職や職員が他施設との交流研修や利用者対象セミナー等の各種活動にも参加しました。

イ 利用者自治会への支援

利用者の自主的な組織である利用者自治会の役員会がみんなの会議を月1回開催できるよう支援しました。利用者自治会の役員会では、全利用者が集まるみんなの会議で提案したい議題を協議し、みんなの会議では役員会で話し合った内容をもとに意見交換を行いました。

(6) セーフティマネジメント

起きてしまった事故やヒヤリと感じた事例は記録し、「事故報告書」や「ヒヤリ・ハット事例報告書」を作成しました。また、講師を招きリスクマネジメント研修を実施し、園内共有を図った他、リスク発生傾向の高い利用者のリスクマップの作成に取り組み、事故の予防や再発防止に努めました。

令和元年度事故・ヒヤリハット状況

単位：件

	転倒・転落	所在不明	危険行為	服薬関連	その他	合計
事故	4	0	4	0	6	14
ヒヤリハット	43	3	66	23	74	209

(7) 食生活

利用者にとって食事が健康維持・増進に役立つとともに、大きな楽しみとなるよう、給食の運営に努めました。給食管理業務は、民間事業者への業務委託により実施しています。

ア 適切な食事提供

性別や年齢、体格、運動量から一人ひとりの状況に応じた必要な栄養摂取量を算出するとともに、嗜好や咀嚼、嚥下機能、摂食機能等にも配慮し、利用者個人の特性に合わせた食事の種類の細分化を図っています。

イ 潤いのある食事提供

お楽しみ昼食会（正月、夏、年末）、毎月の誕生膳や季節行事にあわせたメニュー等で、楽しく潤いのある食事になるよう努めました。

ウ 安全な食事の提供

調理業務は厚生労働省による「大量調理マニュアル」に基づいて衛生面に注意して行いました。使用食材は、産地、製造元を確実に把握し、納品時の状況、保管状態、消費、賞味期限等についても適切に管理されていることを点検しました。

エ 調理実習

利用者の自立支援の一助として、1回2名の利用者を対象に施設栄養士、作業療法士、生活支援員、ボランティアが協力し、年4回の調理実習を実施しました。同じメンバーで同じメニューを繰り返し調理することで、食品や栄養、調理に関する知識及び技術の効果的な習得を目指しました。

また、長時間の調理作業への参加が困難な方で、簡単な調理を楽しみたい利用者を対象に簡単なおやつ作りを行いました。

令和元年度栄養目標量と提供栄養量

	目標量	提供栄養量
エネルギー (kcal)	1,800	1800
たんぱく質(g)	70	70.1
脂質 (g)	50	53.6
カルシウム(mg)	700	763
塩分(g)	9以下	8.3
炭水化物エネルギー比(%)	50~60	57.6
たんぱくエネルギー比(%)	15~18	15.6
脂質エネルギー比(%)	25以下	26.8

令和元年度特別食利用者の状況

特別食	喫食者人数
治療食	3
軟菜食	3
粥食	9
きざみ食（4段階）	39
その他（個別対応等）	33



【食事の様子】

(8) 保健衛生

ア 健康管理

令和元年度の入院数は18名（平成30年度11名）でした。通院数は2,230件（平成30年度2,284件）でした。令和元年度の救急外来受診は16件（平成30年度10件）、救急車使用は3件（平成30年度1件）でした。令和元年度、病気でお亡くなりになった方は、4名でした。（平成30年度0名）

イ 検診

園内で嘱託医7名による定期検診を毎月実施し、健康状態の観察及び治療を行いました。平成26年度から始めた専門医による「摂食嚥下機能評価」も定期的（年3回）に実施し、利用者の食の安全を守っています。

ウ 定期健康診断と定期受診

利用者の8割が40才以上です。利用者の高齢化が進むにつれ、生活習慣病を患う人も増加しています。生活習慣病は初期症状に乏しく、また利用者自らが身体の異変を訴えることが少ないため、病気が進行して初めて気がつくことがあります。

このため、定期健康診断と定期受診は早期発見の場として重要です。令和元年度は入所・通所利用者 85 名全員が9月に健康診断を受けました。

エ 感染症対策

令和2年1月から問題になっている新型コロナウイルス感染症については、最新の情報に基づいて利用者・職員の感染防止に努めています。感染予防のために職員一人ひとりがCDCガイドラインに明記されているアルコール速乾性手指消毒剤を持って働いています。令和元年度はインフルエンザ、ノロウィルスの発生はありませんでした。(平成30年度インフルエンザ延べ2名、ノロウィルスの発生なし)

オ 救急法研修

安全対策の基本動作を周知し、事故発生時に適切に対応するために、心肺蘇生法、AED操作法、気道内異物除去の研修を実施しました。令和元年7月に、障害者支援施設におけるリスクマネジメント研修を実施し、利用者の支援につなげています。

令和元年度 健康診断等の状況

検査項目等	回数	対象者
便細菌検査	年12回	直接支援職員 栄養士
健康診断 (胸部撮影、血液、尿)	年1回	利用者全員
血圧測定	月1回	利用者全員
体重測定	月1回	利用者全員
内科検診	月2回	利用者全員
皮膚科検診	月2回	利用者のうち必要とする者
精神科検診	月1回	利用者のうち必要とする者
耳鼻科検診	年1回	利用者全員
歯科検診	年2回	利用者全員
乳がん検診(触診)	年1回	女性利用者全員
摂食えん下機能評価	年3回	利用者のうち必要とする者
理学療法士相談	年4回	利用者のうち必要とする者

令和元年度 定期受診中の診療科

	診療科	受診者数
1	内科	28
2	外科	9
3	整形外科	4
4	眼科	3
5	婦人科	1
6	泌尿器科	6
7	脳神経外科	0
8	皮膚科	76
9	耳鼻科	13
10	歯科	75
11	精神科	69

入所利用者 76人

令和元年度通院及び施設内診察状況

診療科目	延べ人数
内科	375
外・整・形成・麻酔	110
泌尿器科	32
婦人科	9
耳鼻科	165
皮膚科	310
眼科	30
歯科	392
精神科	782
脳外科	6
神経内科	3
救急外来	16
合計	2,230

令和元年度入院状況

診療科目	延べ人数	延べ日数
精神科	2	27
内科	9	374
眼科	1	3
整形外科	1	3
救急科	3	33
外科	1	7
耳鼻科	1	9
合計	18	456



【レントゲン検診の様子】

(9) 再整備事業

松風学園入所者の居住環境の改善を図るため、施設の改修や新たな居住棟の建設等により居室を個室化し、現在の障害者入所施設の面積基準に適合させます。

また、個室化による入所定員の減を補うために、新たに松風学園の用地を一部活用して民間事業者による入所施設を整備します。

学園では本事業を円滑に進めるため、平成30年度から「松風学園再整備プロジェクト」を立ち上げ、課題等の協議を行っています。令和元年度は、基本設計に係る園内の意見取りまとめや、再整備工事中の代替活動場所等の検討を行いました。

2 地域支援

(1) 総合相談

施設の相談窓口として、市民や関係機関から施設利用の相談や申し込みを受けました。

令和元年度入所希望者

	申込者数	受入者数
男	119	0
女	67	0
合計	186	0

令和元年度通所希望者

	申込者数	受入者数
男	0	0
女	0	0
合計	0	0

(人数はR2.3.31現在)

(2) 在宅障害者支援

ア 短期入所事業

男性2人、女性2人の定員で短期入所事業を行いました。令和元年度の利用日数は、男女合わせて1,309日に達しました。利用目的としては、家族からのレスパイト(介護者の休養)が過半数ですが、区福祉保健センターからは、介護者の入院等による緊急対応の相談が多く出されています。

イ 後見的支援事業

この事業は、知的障害者のご家族等が緊急入院等された場合に備え、親戚や近隣の人などの対応者及び支援方法を事前に登録する制度です。その対応者が対応できない場合、施設での受入れを実施します。令和元年度の利用実績はありません。

(3) 地域交流の推進

ア 地域交流行事の実施

地域との交流を深めるため、様々な行事を実施しました。

実施日	行事名	内容
6/3	YMCA保育園花の日	YMCA保育園が花束と作品を持って来園。歌を歌い交流しました。
6/3.14.19.24	上飯田小学校と交流会	上飯田小学校の1年、3年、4年生より、歌やダンスの披露などがありました。
6/20	ふれあい牧場	近隣の施設、作業所とともに、小動物とふれあいました。

イ 施設開放

障害者団体や地域住民のサークル活動等への施設開放は、再整備事業の実施に伴い、令和元年7月31日をもって終了しました。

ウ ボランティアの受入れ

利用者とボランティアとの交流を目指して、令和元年度も積極的にボランティアを受入れました。その結果利用者の生活の質が高まり日中活動の幅が広がりました。

令和元年度施設開放

施設	利用団体	年間件数
短期宿泊訓練棟	障害者団体・地域サークル	4
和室	障害者団体・地域サークル	4
カフェテリアム	障害者団体・地域サークル	11
体育館	障害者団体・地域サークル	121
グラウンド	地域サークル・保育園	6
ゲストルーム	地域サークル	12
〈合計〉		158

令和元年度ボランティアの活動内容

活動内容	年間延べ数
日中活動ボランティア	120
衣類補修ボランティア	18
外出、送迎ボランティア	23
理容・美容ボランティア	66
木工ボランティア	4
行事ボランティア	7
合 計	238

エ 地域活動、行事への参加

利用者が地域住民と交流を図るため、地域行事や地域サロン等に参加しました。また、地域住民だけでなく近隣の福祉事業所、保育園、小中学校とも交流の機会を持ち、松風学園の行事にも招待しました。

利用者による定期的な地域活動

活動名	活動内容	活動日
やまびこ	地域交流サロンの一つで体操、手芸、喫茶などに参加	第2金曜日
中村ふれんど	地域の交流サロンの一つで体操、ゲーム、手芸、喫茶などに参加	第2木曜日

利用者が参加した地域行事

実施日	行事名	内容
5/25	泉区ふれあい“ザ”軽スポーツ大会	他施設の利用者、中学生のボランティア、地域住民とともにスポーツを楽しみました。
6/2	ふれあいやめ祭り	上飯田地区センターで開かれる祭りで、当園利用者の作品を販売しました。
10/13	上飯田連合体育祭	台風により中止
12/3~9	泉区福祉の作品展	他施設と共に利用者の作品を出展しました。
12/15	上飯田北公園の清掃	地域の住民と協力して、公園の清掃を行いました。
2/16	音楽で遊ぼう	いずみ中央地域ケアプラザにて開催された音楽イベントに参加しました。

オ 他施設・関係機関・地域との協働

「泉区障害者自立支援協議会（以下「区協議会」という。）」や「上飯田地域福祉保健計画」の取組に参加し、地域の障害福祉に関する情報交換や課題抽出、検討を行いました。区協議会では、事務局の一員として、毎月の企画会に参加し、企画・運営に携わりました。また、区協議会の一部である「相談部会」や「グループホーム分科会」にも参加し、泉区内の事業所情報の収集や意見交換を実施しました。

カ 実習生、インターンシップの受入れ

社会福祉分野の人材育成のため、令和元年度は大学・専門学校等の6名の実習生を受入れました。また、インターンシップで学生3名を受入れ、福祉の仕事を知ってもらいながら、利用者との交流を図りました。

キ 人権研修の場の提供

人権研修の場として当園を提供し、本市職員向けの研修として、総務局新採用職員研修（4名×2回、2人×1回）、健康福祉局新採用等研修（2名）、健康福祉局責任職人権研修（1回3グループ計20名）、泉区人権啓発研修（15名）を受入れました。



【上飯田小学校と交流会】



【軽スポーツ大会】

(4) 福祉ホームの運営

設備の老朽化などの理由により、利用はありませんでした。

リビングは入所棟利用者が余暇支援の一環として利用しました。

3 防災対策

R元年度防災・避難訓練等の実施状況

実施日	訓練名	参加者	実施内容
7/18	夜間想定避難訓練 消火機器操作訓練	全棟利用者、職員、 設備管理委託業者、 泉消防署	夜間、居住1棟1階配膳室からの出火を 想定した訓練の実施。 消火器等の操作。
10/17	地震対策避難訓練 炊き出し訓練	全棟利用者、職員	大規模地震の発生を想定した訓練実施。 利用者と職員全員分の炊き出し訓練

令和元年度も全利用者を対象に、「松風学園消防計画」による避難訓練を行いました。松風学園では、平成7年8月に学園、上飯田中村町内会と向ヶ丘自治会の3者で、「消防相互応援協力に関する覚書」を交わしています。内容は①消防隊が到着するまでの間の初期消火や入所者の避難誘導、②消防隊到着後の避難者介護等の支援活動です。これに基づき、利用者の安全な場所への避難誘導、安否確認、訓練の検証を近隣町内会とともに行いました。



【炊き出し訓練の様子】

また、平成25年5月に上飯田中村町内会と「震災時におけるいっとき避難場所の提供に関する防災協定」を締結し、当園のグラウンドをいっとき避難場所や防災訓練の場として提供しています。

4 人材育成

(1) トレーナー制度

良質な職員集団の構築と支援技術の継承に基づく利用者への良質なサービス提供を目指し、新採用職員と転入職員に対して主に経験3年から5年の先輩職員をトレーナーとして任命し、1年間にわたり実践的できめ細かな指導を行いました。

(2) 園内研修の実施

質の高い支援を行うため、障害理解から具体的な援助技術まで、外部講師をお招きし園内で研修を実施しました。(実施状況は次ページの通り)

令和元年度も、昨年度に引き続き、区協議会加入事業所にリスクマネジメント研修やてんかん研修の参加を呼びかけ、多くの外部事業所の参加がありました。令和元年度、新たな研修として「発達障害者地域支援マネージャー研修～構造化された支援～」及び「虐待防止研修」を行いました。

(3) 外部研修への参加

障害者支援の専門性を更に深め、業務に生かすことを目的に、外部研修にも参加しました。令和元年度は知的障害福祉関係職員研究大会(全国、関東地区)、自閉症カンファレンス NIPPON、強度行動障害者養成研修(基礎、実践)、ノーリフトケアコーディネーター養成講座に参加しました。

また、第54回横浜市保健・医療・福祉研究発表会で「自閉症スペクトラム障害を有する入所者への取り組み」及び「松風学園の摂食嚥下機能支援に関する取り組み」を発表しました。

(4) 人権委員会及び虐待防止委員会の開催

利用者の人権に関する議題を議論するために月1回、人権委員会を開催しました。

職員一人ひとりが、果たすべき役割をしっかりと認識し、支援の質の向上のための取組を継続することで、より良い支援を目指していきます。

令和元年度は、園における今後の取組に係る検討・実践を進めるとともに、職員自身の気づきのために虐待防

止セルフチェックリストを実施し、支援に係る自己点検を行うなど、職員の人権意識の向上を図りました。

また、人権委員会の上部組織である虐待防止委員会において、これらの取組を報告し、外部委員から意見を頂戴しました。

令和元年度職員研修の実施状況

研修名	対象職員	日 程	内 容（テーマ）
転入職員研修	新採用、 転入職員	4/15、16	園内各棟業務のガイダンス 介護技術、服薬管理等を学びました。
食中毒・手指消毒研修	全職員	5/22	感染症予防の基本である手洗いと手指消毒の正しい方法を身につけました。
歯のブラッシング研修	全職員	5/22	歯科医師と歯科衛生士により、歯と口の健康について講義を受け、利用者の介助ブラッシングの実技を行いました。
自閉症スペクトラム障害の人へのコミュニケーション支援	全職員	6/3	障害のある人の権利に関する条約から、ASDの方が自発的な要求ができることを目的とした支援について学びました。
腰痛予防研修	新採用、 転入職員	6/11、18	理学療法士を講師とし、身体の仕組みや腰痛の原因、予防の技術等を学びました。
介護技術研修・ 心肺蘇生術研修	新採用、 転入職員	6/11、18	救急隊員の指導により、心肺蘇生法・AED使用の実技を習得しました。
PECS ワークショップ レベル1	全職員	6/13、21	絵カード交換式コミュニケーション（PECS）のワークショップレベルⅠに参加し、全員終了証を頂きました。
摂食嚥下研修	全職員	7/1	摂食、嚥下のメカニズムを学び、摂食嚥下機能を定期的に評価し、支援に生かします。
強度行動障害研修 (基礎編、中級編、実践編)	全職員	7/19、8/2、 9/13	強度行動障害、自閉スペクトラム症の基礎を学び、適切な理解と支援の実例を映像で見たり、事例検討を重ねたことで、利用者にあわせた支援に取り組むことができました。
障害者支援におけるリスクマネジメント研修	全職員	8/21	障害者支援における安全・リスクについて考え、事故発生のメカニズム・分析・危機予知トレーニングを学びました。
知的障害児・者のてんかん研修	全職員	9/6	てんかん診療の基本、発作の種類、診断、治療、生活指導について、てんかん専門医の講義を受けました。
暴力防止サポート 研修	生活支援員	10/29	自傷他害行為から利用者と職員を守るための方法について学びました。
感染症研修	全職員	11/21	感染症に関する基礎的な知識及び予防法を学びました。
ノロウイルス対応研修	全職員	12/2	泉区生活衛生課指導で、食中毒の基礎知識とノロウイルス発生時対応を学びました。
社会福祉職研修	生活支援員	12/3、17	テーマ「ストレングス支視点を活かした支援のために～個別支援計画を活用して～」を学びました。
虐待防止・不祥事防止研修	全職員	1/14、15、 16、17、21	「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」等を用いて、虐待防止について学びました。



松風学園は知的障害のある方の生活を支援しています

令和2年6月 発行